FREE
ご自由に お持ちください。

No.848
2024 May
5

岐阜県の森林・林業

森林（もり）のたより

News of the forest

春だ、森の楽園へ行こう!

（生活環境保全林）

夜明けの森

粥川の森

乙女渓谷の森

ながら川
ふれあいの森

粥川の森

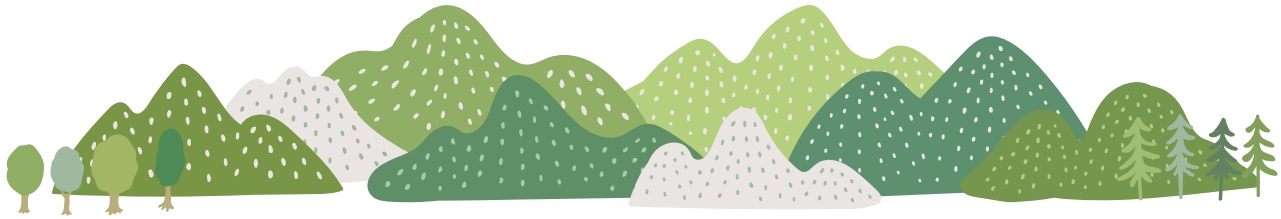
乙女渓谷の森

編集・発行 公益社団法人 岐阜県山林協会
E-mail sanrinag@quartz.ocn.ne.jp
http://www.g-forestry.or.jp （公社）岐阜県山林協会の情報をご覧いただけます。

森林・林業関係イベントカレンダー（3月～6月）

一般向け

開催日	行事名等	内　容　等	場　所 申込（問合せ）先／TEL
3月1日（金）～ 5月31日（金）	**緑の募金（春期）**	●「緑の募金で進めようSDGｓ」をスローガンに家庭募金、企業募金、職場募金などを行います。	公益社団法人岐阜県緑化推進委員会 TEL：058-273-7577
6月上旬～ 12月上旬まで 計7回	**狩猟免許試験**	狩猟免許取得のための試験を実施します。 ●開催日時は県HPをご確認ください。 ※事前に申請書類等の提出が必要です。詳しくは右記にお問い合わせください。	県HPをご確認ください。 各地域を所管する県事務所、または環境生活政策課 （058-272-1111内線 2921）



目次 Contens

イベントカレンダー（一般向け）……2
令和6年度　岐阜県林政部予算のあらまし……3
G－クレジット制度の登録状況について……6
地域を守り、未来を築く　岐阜県営林J－クレジット……7
わが社の頑張るフレッシャーズ……7
岐阜県地域森林監理士の認定について……8
シリーズ：役立っています！〝森林環境譲与税〟2……8
地域の人 自然と人をつなぐ　自然の楽しさを伝えたい！……9
交流派遣を終えて……10
〝ぎふの木使います！〟(7)……12
「ぎふ森のある暮らし」のお便り(2)……13
山の歳時記(225) モチツツジ……14
山のおじゃまむし(394) ……15
ぎふ木遊館通信……16
morinos　プログラム紹介!!……17
シリーズ：『森林・環境税』で〝緑豊かな清流の国ぎふづくり〟(1)……18
森林と人を活かす知恵(136) 木材と考える、「ひとに教える」ということ……19
木の香るぎふの施設(134) 岐阜県立西濃高等特別支援学校　多目的室……20
研究コーナー 土石流災害リスクをわかりやすくするための地図を作成しました……21
普及コーナー 施業プランナー研修について……22
森林技術開発・支援センター　林業普及通信……23
国有林の現場から(91) 「デジタル森林紀行」のご紹介……24
林業者向けお知らせ……25
市況……26

表紙●生活環境保全林は花木や実のなる木を植えたり、歩道や利用施設などを整備し、皆さんの保健休養や自然観察の場としてご利用いただくための森林で、県下に18カ所あります。詳しくは「森の楽園」で検索して下さい。

令和６年度

岐阜県林政部予算のあらまし

林政部の令和６年度一般会計当初予算の総額は、１９９億１，０５９万円で、前年度と比較して１７億２，３２３万１千円、率にして９・５％の増額となっています。増額の主な理由は国土強靭化対策として治山施設や林道の整備を行うことによるものです。

林政部では、令和４年度にスタートした「第４期岐阜県森林づくり基本計画」に沿って、「清流の国ぎふの未来を支える森林づくり」に取り組んでいます。

計画の施策の柱は３本あり、１つ目は、「森林づくりの推進」です。近年の豪雨災害により、森林・林業分野でも多大な被害が発生したことを受け、「災害に強い循環型の森林づくり」を推進します。また、担い手不足に対応するため、「森林技術者の確保・育成・定着」に引き続き取り組みます。

２つ目は「林業・木材産業の振興」です。昨年４月に施行した「岐阜県木の国・山の国県産材利用促進条例」に基づき、県有施設や民間施設等の木造化、内装木質化等を進めるほか、新規輸出先国への販路拡大に向けた現地プロモーション拠点の設置などを行い、「都市の木造化・脱炭素社会の実現に向けた県産材の需要拡大」を推進します。

また、県産材の安定供給に向け、「ＤＸの推進による林業・木材産業改革」を進めます。

３つ目は「森林の新たな価値の創造と山村地域の振興」です。森林空間を活用し、新たな雇用と収入を生み出す森林サービス産業を引き続き育成するほか、カーボンニュートラルの実現に向けて、Ｇ-クレジット制度の本格的な運用、県営林でのＪ-クレジットの販売を推進します。また、「新しい林業に向けた展開」では、木材需要の中で燃料材の占める割合が全国的にも増えているため、これまでの森林整備に加えバイオマス資源林の整備に向けた早生樹の施業体系等の構築を進めます。

令和６年度　林政部の基本方針

「第4期岐阜県森林づくり基本計画」（令和4～8年度）に基づき実施する施策　～SDGsの達成に向けて～

＜１　森林づくりの推進＞

⑴災害に強い循環型の森林づくり

◆激甚化する災害に備えた山地防災力の維持・強化

拡・治山施設と森林機能を組み合わせた事前防災地区による面的防災力の強化
拡・山地災害危険地区における治山施設整備の推進
・災害に強い作業道づくりの推進

◆100年先を見据えた森林づくりの方向性と仕組みづくり

【花粉症対策】

拡・スギ人工林における主伐・再造林への支援
新・花粉の少ないスギ等の種子増産に向けた体制整備

新・低コスト再造林を推進する基金団体への支援
・再造林にかかる獣害対策への支援
・環境保全等における間伐等への支援

◆森林経営管理法に基づく市町村による森林管理の支援

・市町村の林務行政を支援する「地域森林管理支援センター」の運営
・「岐阜県地域森林監理士」の活用支援
新・森林整備の推進に向けた環境明確化への支援

⑵森林技術者の確保・育成・定着

新・全国の若者に向けた林業の魅力発信
・森林文化アカデミー学生や移住者への林業就業支援
新・人材育成と安全教育を行う「フォレスタースクール（仮称）」の実施
新・架線技術者の育成
拡・森林技術者の離職防止対策

＜２　林業・木材産業の振興＞

⑴都市の木造化・脱炭素社会の実現に向けた県産材の需要拡大

新・県産材の利用促進に向けた魅力発信
拡・協定に基づく非住宅での木造化・内装木質化、木製品導入等への支援
新・欧州等の新たな国に向けた輸出促進
・首都圏、関西圏への販路拡大
・県産材を活用した住宅への支援
・木質バイオマス燃料の安定供給の促進

⑵ＤＸの推進による林業・木材産業改革

◆需要に合わせ柔軟かつ迅速に対応する木材サプライチェーンの構築

拡・ＩＣＴ等を導入する事業者への支援
・住宅建築情報や木材需給情報を共有するシステム構築への支援
拡・ＤＸに取り組む事業者を対象とした研修会の開催
拡・輸入材から県産材の転換に向けた支援

◆木材の安定供給と森林所有者への利益還元

・デジタルデータを活用した森林資源の在庫管理への支援
・工程管理改善を図る事業体への支援
拡・林道等路網整備の推進
新・欧州からの最新機械導入に向けた調査

＜３　森林の新たな価値の創造と山村地域の振興＞

⑴森林空間等を活用した森林サービス産業の育成による山村振興

◆新たな雇用と収入を生み出す森林サービス産業の育成

新・「ぎふ森の体験博覧会(もりはく)(仮称)」の開催
新・森林を活用したビジネス創出への支援
・「ぎふ森のある暮らし推進協議会」への支援
・森林サービス産業の普及啓発と人材育成

【カーボンニュートラルの実現に向けた取組み】

新・「Ｇ-クレジット制度」の本格的な運用
新・県営林での「Ｊ-クレジット」の販売推進

◆「ぎふ木育30年ビジョン」の実現に向けた「ぎふ木育」の新たな展開

・「ぎふ木遊館サテライト施設」等を活用した「ぎふ木育」の全県展開
・「ぎふ木育」指導者等の養成
・多様な木育プログラムの実践

⑵きのこなどの特用林産物の振興

拡・岐阜県産原木及び生産資材の購入支援
新・高級菌根性きのこ栽培に関する技術開発
新・薪生産者を対象とした設備導入への支援

＜「新しい林業」に向けた展開＞

新・バイオマス資源林の整備に向けた早生樹の施業体系等の構築
新・分野横断的技術開発プロジェクトの推進

以下、主な事業をご紹介します。

重点施策：森林づくりの推進

1　激甚化する災害に備えた山地防災力の維持・強化

頻発化、激甚化の傾向にある豪雨災害から、県民の生命・財産を守り林業の振興を図るため、治山施設と森林整備を組み合わせた山地防災力の維持・強化と災害に強い森林作業道の整備を推進します。

(1)治山施設と森林整備を組み合わせた事前防災地区による面的防災力の強化　（585,300千円）

・市町村や林業事業体と連携した事前防災地区を設定し、間伐などの森林整備と、不安定土砂の移動を防ぐダムの設置等の治山対策を総合的に実施

(2)山地災害危険地区における治山施設整備の推進　（3,656,000千円）

・防災・減災、国土強靱化のための5か年加速化対策として治山事業を実施し、土砂災害発生リスクが高い山地災害危険地区の整備を推進

(3)災害に強い作業道づくりの推進　（5,000千円）

・既設森林作業道において安全性や耐久性を向上させるため路盤や排水処理施設の整備等機能強化を支援

2　100年先を見据えた森林づくりの方向性と仕組みづくり

100年先の望ましい森林の姿を示す「森林配置計画」に沿った森林づくりを促進するとともに、花粉発生源のスギ人工林を国が定める10年度に約2割減少させることを目指して、花粉発生源対策に取り組みます。

(1)スギ人工林における主伐・再造林への支援　（445,348千円）

・スギ花粉症対策の国補助事業を活用し、獣害を受けたスギ人工林等の主伐・再造林に要する経費を助成

新 **(2)花粉の少ないスギ等の種子増産に向けた体制整備**　（28,521千円）

・林木育種事業地の採種園の整備を進めるとともに、岐阜県由来の少花粉ヒノキの品種の生産に向け、材質が東濃桧の特徴に合致するか検証

新 **(3)低コスト再造林を推進する基金団体への支援**　（2,375千円）

・低コスト再造林を推進するため、地域で組織された再造林基金団体を対象に、再造林支援等に要する経費を助成

(4)再造林にかかる獣害対策への支援　（8,535千円）

・シカ等による苗木の食害やクマ等による立木の樹皮被害を防ぐため、忌避剤の散布やテープ巻き等に対して助成

(5)環境保全林等における間伐等への支援　（3,463,787千円）［一部再掲］

・「森林配置計画」の配置区分である木材生産林や環境保全林の目的に沿った間伐等の森林整備に要する経費を助成

3　森林経営管理法に基づく市町村による森林管理の支援

「地域森林管理支援センター」の運営や、「岐阜県地域森林監理士」の活用支援等により、市町村の森林経営管理制度による取組みを支援します。

(1)市町村の林務行政を支援する「地域森林管理支援センター」の運営　（30,539千円）

・「地域森林管理支援センター」において市町村からの相談対応や専門家への相談斡旋、市町村林務担当職員向けの研修等を実施

(2)「岐阜県地域森林監理士」の活用支援　（8,607千円）

・市町村等による「岐阜県地域森林監理士」の活用に要する経費を助成

新 **(3)森林整備の推進に向けた境界明確化への支援**　（2,450千円）

・国庫補助の対象とならない森林において境界明確化を行う林業事業体に対し、作業に要する経費を助成

4　森林技術者の確保・育成・定着

「森のジョブステーションぎふ」を核に引き続き森林技術者の確保・育成・定着に取り組むため、林業の魅力を強力に発信し林業の担い手となる就業希望者を増加させるとともに、森林技術者の離職防止対策を強化します。

新 **(1)全国の若者に向けた林業の魅力発信**　（10,583千円）

・林業に関連するインフルエンサーを「岐阜県きこり大使（仮称）」に起用し、SNSを活用した動画の配信などにより、林業への就業に向けた魅力を発信

(2)森林文化アカデミー学生や移住者への林業就業支援　（35,050千円）

・林業への就業に向けた知識と技術の習得が必要な森林文化アカデミーの学生や県外から移住し林業に就業した者に対し就業支援金を給付

新 **(3)人材育成と安全教育を行う「フォレスタースクール（仮称）」の実施**　（2,700千円）

・「森のジョブステーションぎふ」を森林文化アカデミーへ移転し、連携することで、ICTやVRなどの最新技術を取り入れた森林技術者の育成や林業労働災害を防止するための安全教育を行う「フォレスタースクール（仮称）」を実施

新 **(4)架線技術者の育成**　（7,500千円）

・木材生産を拡大するため、急峻な地形で作業道等の整備が困難な森林から木材を搬出できる架線技術のOJT研修を支援

(5)森林技術者の離職防止対策　（6,975千円）

・「森のジョブステーションぎふ」が相談窓口の中心となり、林業技術の相談に対応するとともに、森林技術者同士のコミュニケーションの活性化を図る交流会を実施

重点施策：林業・木材産業の振興

5　都市の木造化・脱炭素社会の実現に向けた県産材の需要拡大

「岐阜県木の国・山の国県産材利用促進条例」に基づき、建築物等への県産材利用の促進、輸出の促進、県民及び事業者への理解の醸成などを図り、県産材の需要拡大を推進します。

新 **(1)県産材の利用促進に向けた魅力発信**　（17,500千円）

・家具や建材などの木製品の紹介や木に触れる体験の提供などにより、県産材の魅力を発信するイベントを開催

(2)協定に基づく非住宅での木造化・内装木質化、木製品導入等への支援　（408,794千円）

・県と協定を締結した事業者が行う木造化、内装木質化などの県産材を利用する取組みに要する経費の一部を助成

新 **(3)欧州等の新たな国に向けた輸出促進**　（11,000千円）

・付加価値の高い木製品等の新規輸出先国への販路開拓に向け、現地プロモーション拠点の設置や商談会、輸出に必要な知識に関する研修会などを実施

(4)首都圏、関西圏への販路拡大　（9,334千円）

・東京・大阪で開催される住宅資材等の展示会に出展し県産材製品のPRを行うとともに、首都圏・関西圏の工務店等に対し県産材製品の斡旋等を行う相談窓口を設置

(5)県産材を活用した住宅への支援　（102,400千円）

・木造住宅の新築又はリフォームにおいて、構造材や内装材に県産材を一定量以上使用した建築主や、県産材住宅の建設拡大に向けた活動を行う産直住宅建設団体を支援

6　需要に合わせ柔軟かつ迅速に対応する木材サプライチェーンの構築

木材生産から加工流通過程のデジタル化や、その情報を基に需給調整を行う体制の構築等を支援し、木材需要の変化に迅速に対応する木材サプライチェーンの構築を図ります。

(1)ICT等を導入する事業者への支援　（7,720千円）

・ICTをはじめとした新技術の活用により、森林資源調査の効率化や林業の労働負荷軽減、安全性向上に取り組む林業事業体を支援

・業務改善を促進するため、専門家の派遣を実施

(2)住宅建築情報や木材需給情報を共有するシステム構築への支援　（17,000千円）

・県産材住宅の建設促進に向け、サプライチェーンを構築して県産材の需給調整や、販路拡大などに取り組む団体に対し助成

・木材生産から加工流通過程の効率化を図るため、生産工程管理や受注管理等のデジタル化に取り組む事業者を支援

(3)DXに取り組む事業者を対象とした研修会の開催　（3,439千円）

・ICTをはじめとした新技術の活用による業務効率化に向け、林業・木材関係事業者を対象とした研修会を開催

(4)輸入材から県産材の転換に向けた支援

・木材加工施設等の整備に対し助成　（350,450千円）3月補正含む

7　木材の安定供給と森林所有者への利益還元

需給変動に柔軟かつ迅速に対応した原木の効率的・安定的な供給と森林所有者への利益還元を図るため、林業事業体による森林資源の在庫管理や工程管理改善に取り組むとともに、林道等の整備と機械化による原木の生産基盤の強化を促進します。

(1)デジタルデータを活用した森林資源の在庫管理への支援　（3,020千円）

・森林資源の在庫管理の実現に向け、航空レーザ計測結果等のデジタルデータを活用し、林業事業体が木材生産計画を作成するための手順書を整備

(2)工程管理改善を図る事業体への支援　（1,000千円）

・木材生産体制を強化し生産性向上を図るため、外部指導者による指導の下、生産工程管理の改善に取り組む林業事業体を支援

(3)林道等路網整備の推進　（1,922,630千円）

・市町村が行う林道の整備に対して助成するとともに、基幹的な林道及び林業専用道を県が代行して整備

新 **(4)欧州からの最新機械導入に向けた調査**　（4,257千円）

・生産性・経済性に優れた最新の林業機械について、林業先進国のドイツ等における利用状況や本県への導入の可能性等を調査

重点施策：森林の新たな価値の創造と山村地域の振興

8　新たな雇用と収入を生み出す森林サービス産業の育成

社会のデジタル化が進むなか、森林がもたらす癒しの効果や五感で自然を体験することへのニーズが高まっている一方、山村地域では産業の停滞や若者の流出が課題となっていることから、山村地域に新たな雇用と収入機会、関係人口を生み出す森林サービス産業を育成します。

新 **(1)「ぎふ森の体験博覧会（もりはく）（仮称）」の開催**　（10,000千円）

・森林サービス産業の育成と普及を図るため、魅力ある森の体験プログラムを発掘・育成し県内各地で実施する「ぎふ森の体験博覧会（もりはく）仮称）」を開催

新 **(2)森林を活用したビジネス創出への支援**　（12,500千円）

・森林サービス産業を実施する事業者に対し、施設整備、備品等購入、計画策定等の事業実施に要する初期費用を支援

(3)「ぎふ森のある暮らし推進協議会」への支援　（5,197千円）

・森林サービス産業の育成と普及を図るため、「ぎふ森のある暮らし推進協議会」が行う広報や会員交流会等の活動を支援

(4)森林サービス産業の普及啓発と人材育成　（3,034千円）

・森林サービス産業の普及啓発のためのセミナーや、森林空間を活用するうえで必要となる知識を習得するための研修会等を開催

・事業者のPR方法や今後の事業展開等の課題解決に向けたプランナー派遣等を実施

9　カーボンニュートラルの実現に向けた取組み

2050年カーボンニュートラルの実現に向け、木質バイオマス発電施設の需要が高まっているため、燃料材を供給する森林の施業体系等の構築を図るとともに、森林に放置された未利用材の利用を促進します。

また、本県独自の森林由来のカーボン・クレジット制度である「G－クレジット制度」を本格的に運用します。

新 **(1)バイオマス資源林の整備に向けた早生樹の施業体系等の構築**　（2,746千円）

・木質バイオマス発電施設に対し、燃料材を持続的に供給することができる森林を造成するため、早生樹の生育状況を調査研究し、施業体系等を構築

(2)木質バイオマス燃料の安定供給の促進　（11,150千円）

・森林に放置された未利用材の利用を促進するため、林業事業体や市町村と地域住民等が協働して行う搬出に対し助成

新 **(3)「G－クレジット制度」の本格的な運用**　（71,547千円）

・県内の適切に管理された森林による二酸化炭素吸収量を県が認証する「G－クレジット制度」を本格的に運用

新 **(4)県営林での「J－クレジット」の販売推進**　（5,270千円）

・県営林において、J－クレジット制度に基づき令和5年度に初めて認定されたクレジット販売を開始し、新たなクレジットについても更なる取得を進める

10　「ぎふ木育30年ビジョン」の実現に向けた「ぎふ木育」の新たな展開

森林・林業に対する県民の意識を醸成するため、「ぎふ木遊館」と「森林総合教育センター（morinos）」を核として、森や木に親しみ、森とのつながりや森林文化の豊かさを段階的、継続的に学ぶ機会を提供します。

(1)「ぎふ木遊館サテライト施設」等を活用した「ぎふ木育」の全県展開　（12,719千円）

・木育指導者の派遣、木のおもちゃを活用した「移動型ぎふ木遊館」、森に親しむ体験活動を行う「森の出番プロジェクト」を実施

・地域で活動する木育・森林環境教育の指導者が情報交換を行う交流会の開催や地域版木育・森林環境教育プログラムの開発を実施

(2)「ぎふ木育」指導者等の養成　（8,571千円）

・「ぎふ木遊館」や「morinos」において、木育や森林環境教育に係る指導者の養成及びスキルアップに向けた研修を実施

・ぎふ木育ひろばの職員を対象としたフォローアップ研修を県内各地で実施

(3)多様な木育プログラムの実践　（81,226千円）

・「ぎふ木遊館」の木のおもちゃでの遊び等の木育体験や、「morinos」の森林環境教育体験により、魅力的で多様なプログラムをあらゆる世代を対象に実施

11　きのこなどの特用林産物の振興

原木などのきのこ生産資材の不足や価格高騰により需給バランスが崩れつつあるため、岐阜県産の原木やきのこの生産資材の調達を支援します。

また、薪ストーブ等の普及により薪の需要が増加しているため、薪生産者が行う施設整備を支援します。

(1)岐阜県産原木及び生産資材の購入支援　（10,616千円）3月補正含む

・生産者団体に加入する生産者が、県産材のしいたけ原木を共同購入する場合に助成

・きのこ生産者が購入する生産資材の高騰分に対し助成

新 **(2)高級菌根性きのこ栽培に関する技術開発**　（100千円）

・令和5年10月に国内で初めて人工的に発生させることに成功した黒トリュフについて、栽培技術を確立するため、短期間で安定的に発生させる技術を開発

新 **(3)薪生産者を対象とした設備導入への支援**　（1,500千円）

・薪の材料となる原木の大径化に対応するため、国の補助事業対象とならない小規模な薪生産者等が行う施設整備に対し助成

12　「清流の国ぎふ森林・環境税」を活用した自然環境の保全・再生

管理不足の森林の増加、外来生物の繁殖、水環境の悪化などにより、森林や河川の持つ公益的機能の低下が懸念されていることから、「清流の国ぎふ森林・環境税」を活用し、自然環境の保全・再生に向けた取組みを行います

(1)森林部門　（855,129千円）

・奥地水源林の間伐、危険な樹木の除去、造林未済地等での早生樹の植栽等の森林整備を支援

・啓発効果の高い公共施設等の木造化・内装木質化を支援するとともに、森や木、川に関する環境教育や「ぎふ木育」の推進等を実施

(2)環境部門　（331,760千円）

・鳥獣被害対策として、ニホンジカやカワウ等の捕獲を支援するとともに、岐阜大学と共同で被害対策を推進

・自然生態系の保全のための河川清掃や魚道の改修等の実施

(3)共通部門　（33,500千円）

・地域団体等が実施する自然環境保全の取組みを支援

Gークレジット制度に取り組む林業事業体を紹介します

県では、健全で豊かな森林づくりを進めるとともに、「脱炭素社会ぎふ」を実現するため、令和5年11月から県独自のカーボン・クレジット制度である、「脱炭素社会ぎふ」・森林吸収量認証制度（Gークレジット制度）を運用しています（詳細は、森林のたよりNo.842を参照）。

一昨年度に、試行で取り組んだ中津川市及び東白川村森林組合に加え、新たにもとす郡森林組合、（有）フォレスト板取、中濃森林組合、揖斐郡森林組合のプロジェクトが登録され、登録済プロジェクトは6件となりました。

登録済のプロジェクト一覧

プロジェクト実施者	実施場所	認証対象期間	総認証量（見込）
中津川市	中津川市川上	令和4～11年度	4,168t-CO2
東白川村森林組合	加茂郡東白川村		1,824t-CO2
もとす郡森林組合	本巣市	令和5～12年度	2,441t-CO2
(有)フォレスト板取	美濃市		928t-CO2
中濃森林組合	関市板取		1,784t-CO2
揖斐郡森林組合	揖斐郡揖斐川町		2,016t-CO2

5月14日に中津川市及び東白川村森林組合が実施するプロジェクトから、初のGークレジットが認証（約540t-CO2）され、取引が始まります。

また、クレジットの活用方法については、地域貢献（CSR）やカーボン・オフセット、県温対条例に基づく温室効果ガス排出削減報告に加え、4月からGークレジットを5t-CO2以上購入した場合、県が発注する工事の工事成績評定において評価することとしたところです。

Gークレジットの森・応援パートナーを募集しています

県では、Gークレジットの購入や普及啓発を通して、県内の森林づくりに寄与する企業等を「Gークレジットの森・応援パートナー」として登録・公表する制度を始めました。

現在、応援パートナーを募集していますので、皆様の積極的な申請をお待ちしています。

【対象】

法人、団体及び個人事業主

【登録要件】

取組内容として次のいずれかもしくは両方を計画していること。

（1）5年にわたり、毎年、5t-CO2以上のGークレジットを購入

（2）5年にわたり、毎年、Gークレジットの普及啓発活動を実施

※目標を達成できない場合の罰則はありませんが、取組内容について実態がない等の事実が判明した場合は、登録を取り消すことがあります。

【登録のメリット】

（1）県から「登録証」をお渡しします。

（2）県がホームページで、登録者及びその取組内容を公表・ＰＲします。

（3）県から啓発資材を提供します。

各制度に関する問い合わせ先

【Gークレジット制度】:Gークレジット制度運営事務局

受付時間:平日（月～金）9:00～17:00　TEL：058-201-5112

E-mail: gcredit-gifu@g-moriren.co.jp

Webサイト: https://gcredit-gifu.jp

事務局Webサイト

【Gークレジット制度管理者】:森林活用推進課森林吸収源対策室森林吸収源対策係

TEL:058-272-1111（内4346）

【Gークレジットの森・応援パートナー制度】:森林活用推進課森林吸収源対策室緑化推進係

受付時間:平日（月～金）8:30～17:15　TEL：058-272-1111（内4349）

E-mail: c11513@pref.gifu.lg.jp

Webサイト: https://www.pref.gifu.lg.jp/page/354037.html

申請フォーム

地域を守り、未来を築く
岐阜県県営林Jークレジット

「岐阜県県営林Jークレジット」で、あなたの環境への一歩が未来をはぐくむ力になります。

Jークレジットとは―

省エネルギー設備の導入や再生可能エネルギーの利用によるCO_2等の排出削減量や、適切な森林管理によるCO_2等の吸収量を「クレジット」として国が認証する制度です。

本制度は、国により運営されています。

「岐阜県県営林Jークレジット」は岐阜県の保有する森林において森林整備を行ったことによる二酸化炭素の吸収量をクレジット化し販売します。

Jークレジットは何に使える?―

本制度により創出されたクレジットは、経団連カーボンニュートラル行動計画の目標達成やカーボン・オフセット、地球温暖化対策の推進に関する法律の報告など様々な用途に活用できます。

カーボン・オフセットとは―

カーボン・オフセット（carbon offset）とは、自分が出すCO_2をほかの人が削減したCO_2で排出量全体、または一部を穴埋めする制度です。

出典：Jークレジット事務局HP

県営林整備の増進。企業評価の向上―

県営林クレジットの販売収益は県営林の整備に役立てられ企業による地元森林整備への寄与、環境への貢献などのPRがなされ、CSRへの効果も期待できます。

※CSRとは：企業活動において、社会的公正や環境などへの配慮を組み込み、従業員、投資家、地域社会などの利害関係者に対して責任ある行動をとるとともに、説明責任を果たしていくことを求める考え方

- ●販売単価　11,000円／t-CO_2（消費税及び地方消費税を含む）
- ●販売数量　最小販売単位は1t-CO_2で1t単位での販売
- ●販売回数　毎年2回程度
- ●購入申込　岐阜県公式ホームページより申請フォームによる申請
  もしくは様式をダウンロードして郵送にて申請してください。

販売に関する問い合わせ先　岐阜県林政部森林保全課　TEL. 058-272-8526　Eメール. c11519@pref.gifu.lg.jp
制度に関する問い合わせ先　Jークレジット事務局　https://japancredit.go.jp/

わが社の頑張るフレッシャーズ

【株式会社 丸光イトウ（可児市）】

斎藤（さいとう） 公平（こうへい）（2022入社 新潟県新発田市（しばたし））

（左）斎藤さん （右）伊藤代表取締役社長

【就業のきっかけは?】

高校生の頃に林業に興味を持ったことがきっかけです。

高校卒業後、岐阜県立森林文化アカデミー（エンジニア科）へ入学し、在学中に企業説明会で㈱丸光イトウの説明を聴く機会があり就業につながりました。

【就業しての感想は?】

（仕事で楽しいこと）

伐採や造材で木を伐った時に重さや堅さなど、樹種特有の個性を感じるところがおもしろいです。

（仕事で苦しいこと）

寒さが苦手なので、厳冬期の作業は辛いと感じることが多いです。

（自信が付いてきた仕事は?）

先輩社員の方にチェーンソーの目立てを褒められた時がとても嬉しく、チェーンソーの目立て技術（刃を研ぐ技術）に自信がつきました。

【山づくりへの思い】

間伐の時は残存木を傷めないように伐倒や重機作業を丁寧に行い、健全な山づくりをしていきたいです。

【今後の抱負（夢など）】

周囲を良く見て、安全で効率の良い方法で作業ができる技術者になりたいです。

【代表者からのエール】

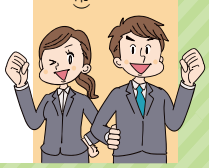
若手の代表としてみんなから頼られる森林技術者に成長してほしいと願っています。

【新たに林業を志す人へ会社のメッセージ（会社PR）】

丸光イトウは『森と街をつなぐURBANFORESTER』を目指しています。

一緒にカッコいいURBANFORESTERになりませんか。

●詳しい内容を知りたい方は
TEL 0575-33-4011
「森のジョブステーションぎふ」まで



岐阜県地域森林監理士の認定について

県では、平成２９年度から、地域における森林の管理及び経営に必要な専門知識を有し、市町村林務行政の支援や民有林経営への助言等を行う人材を「岐阜県地域森林監理士」として認定しています。

令和５年度は新たに以下の４人を認定し、認定者は合計３６人となりました。県のホームページで、岐阜県地域森林監理士の名簿を公開していますので、関心がある方や支援を受けたい方はぜひご覧ください。

新たに岐阜県地域森林監理士に認定された方々のご活躍を期待しています。

認定番号	氏　名	所　属
第R05-01号	原（はら）　雅人（まさと）	自営
第R05-02号	小島（こじま）　徳文（のりふみ）	岐阜県森林組合連合会
第R05-03号	長谷川一行（はせがわかずゆき）	恵南森林組合
第R05-04号	常富（つねとみ）　覚（さとる）	岐阜県森林組合連合会

岐阜県地域森林監理士に認定された方々

県ホームページURL
https://www.pref.gifu.lg.jp/page/16703.html

お問い合わせ　森林活用推進課 森林吸収源対策室 森林吸収源対策係　TEL:058-272-8821

シリーズ

役立っています！“森林環境譲与税” 2

手入れの行き届かない森林の整備や担い手の育成などの取組みを進めるための財源として、国から県や市町村へ森林環境譲与税が配分されています。このコーナーでは、県内市町村による森林環境譲与税の活用事例について連載で紹介します。

中津川市ー森の担い手育成構想ー

取組みの背景

中津川市では、林業従事者の高齢化が著しく、また、市外へ若者が流出するなど、担い手の確保が困難な状況になっています。そこで、「中津川市　森の担い手育成構想」を策定し、森林環境譲与税を活用した森林環境教育や若者の地元定着、移住促進等を強化し、将来の林業・木材産業の担い手確保を図っていくこととしています。

事業内容

1. 森の担い手育成支援の実施

・チェーンソーや刈払機などの資格取得に要する経費を支援
（1人あたり上限５万円／年）
・新規林業従事者を雇用する事業体への装備品購入支援
（1人あたり上限２０万円）

2. 木に触れ、木を知り、木を使える人材の育成

・新生児、新入園児、小学1年生への木製品（市産ヒノキ製）の配付
・中学1年生への技術科教材（市産ヒノキ製）の配付と講師派遣

林業従事者の研修状況

取組みの効果

令和5年度は、担い手育成支援の取組みにより6人の新規林業従事者の確保につながりました。

また、木製品の配付などを通し、木に触れることにより、延べ2,700人以上の乳幼児、児童及び生徒の森林への関心を高めると同時に、郷土愛や地域への関心も高めることができました。

お問い合わせ
森林環境譲与税について：県森林活用推進課 森林吸収源対策室 森林吸収源対策係　TEL:058-272-8821
中津川市の取組みについて：中津川市役所 農林部 林業振興課　TEL:0573-66-1111

栗谷本さん

自然と人をつなぐ 自然の楽しさを伝えたい！

自然体験塾　栗くり工房　代表
栗谷本（くりやもと）　征二（せいじ）さん

今回は、中津川の豊かな自然の魅力を伝え、自然と人をつなぐ様々な活動に取り組まれる、自然体験塾「栗くり工房」代表・栗谷本 征二さんにお話しを伺いましたので紹介します。

栗谷本さんの経歴・功績

栗谷本さんは、中津川市落合に生まれ育ち、今年で80歳。

サラリーマンとして58歳まで勤め、その後、幼少期の自然と触れ合って、楽しんだ経験や父親より残された園芸を活用して、自然体験塾「栗くり工房」を立ち上げられ、これまで20年以上に渡って、たくさんの人々に自然と触れ合う楽しさ、木と親しむ面白さを伝えてこられました。

特に、付知南小学校での全学年で実施される木育活動の講師を務められ、令和5年度「緑の少年団育成功労賞」を受賞。

また、サラリーマン時代から自然公園の湿地整備に携わり、富士見台高原での保全活動や恵那山の登山道整備に長年尽力されている功績が認められ、令和3年度の「自然公園関係功労者環境大臣表彰」を受賞。

活動内容

市内外を問わず多くの保育園、幼稚園、小学校を訪れ、子どもたちと近くの自然を散策したり、植物を使った遊びを教えたり、地元の木を使って楽器やアクセサリーを作ったりと自然と触れ合い、木と親しむきっかけづくりとなる活動に励んでいます。

また、地元の中学校と協力して、富士見台高原のササユリの保護活動「ささゆりプロジェクト」にて種の採取や種まきを行っています。

さらには、大人向けにネイチャークラフトの体験講座やワークショップを開催するなど、自然と触れ合う機会が少ない人たちにも自然の楽しみ方を伝えています。

栗谷本さんの森林散策やクラフト体験は、遊び心が満載で、皆が夢中になり自然と笑顔が溢れます。

活動を通じて、学校に通えない子が減った、家庭での親子の会話が増えたなど、ポジティブな影響がたくさん現れ、小学生の先生や親御さんからも大好評な活動となっています。

五感を感じながら、
栗谷本さんと楽しく森林散策

活動するうえで大切にしていること

・五感を「感じる」ことの大切さ

言葉で説明するだけでなく、感じることが重要だと思っています。

ルーペで物を覗いたり、木を叩いて音を聴いたり、葉や木の実を噛んで味わったり、臭いを嗅いだり、触ったり、五感を使って共有し合った経験が、この先の色々なところで活きてきます。

・体験活動の材料はすべて地産地消

地域の山々から調達した草花や木の実であったり、地元の木こり・木工屋さんから伐採時や加工時に出る端材をいただき、余すことなく使っています。それが市販の木工キットでは味わえない魅力であり、地元ふるさとへの愛着につながります。

工房内での笛づくり体験

おわりに

栗谷本さんから最後にメッセージとして「私が訪れるのを心待ちにしている子どもたちがたくさんいる限り、「生涯現役」でこれからも自然の楽しさをたくさん伝えていきたい！」と心強いお言葉をいただくことができました。

今年夏には木遊館のサテライト施設が中津川市にオープンします。

栗谷本さんをはじめ魅力ある方々から楽しい木育・自然体験ができますので、ぜひ中津川へ遊びに来てください。

【恵那農林事務所　時任】

●詳しい内容を知りたい方は
TEL0573―26―1111（内線305）
恵那農林事務所　林業課　森林整備係まで

を終えて

岐阜県

国有林の仕事に携わって

松下康弘
（派遣先　岐阜森林管理署）

岐阜森林管理署への派遣の内示を受けてから二年が過ぎました。当時の私は森林管理署と殆ど関わったことがなく、現場経験も少なかったため、私に国有林の仕事が務まるのか、そんな気持ちで岐阜署に向かったことを覚えています。

岐阜署での私の役職は「主任地域林政調整官」と聞きなれない名前で長い。自分の役職をスムーズに言えるようになるまで数週間かかりました（笑）。

さて、この主任地域林政調整官は何をするのか、一言でいうと「民国連携」です。民国連携とは文字どおり、民有林と国有林が連携することですが、その推進が私の使命となりました。

岐阜署の民国連携の取り組みとしては、管内の5つの地域で、国有林に隣接する民有林と森林整備推進協定を締結して森林共同施業団地を設定し、間伐等の森林施業の連携を推進しています。その他に、国有林を試験研究、現地実習のフィールドとして提供したり、岐阜大学、岐阜県及び地元自治体と連携してニホンジカ食害防除対策を行ったり、検討会や勉強会を開催して県や市町村、林業事業体の方に参加していただいたり、等々。

私自身には、連携できるほどの経験も知識もありませんでしたが、経験豊富な岐阜署の皆様に助けていただきながら、民有林と国有林の橋渡し役として少しでもお役に立つことができたのなら良かったと思います。

この仕事に携わって私が感じたことですが、民有林（県・市町村）の職員と国有林の職員では、置かれている立場や状況が少し違うなということです。県・市町村の職員は、林業・木材産業関係者と向き合う仕事が多く、国有林の職員は国有林というフィールドと向き合う仕事が主体です。そのような中で、民国連携を推進していくためには、民有林と国有林がお互いの役割を理解し合い、それぞれの強みを生かしながら協力していくことが大切だと思います。そして、民有林と国有林が更に積極的に関わっていくことで、民国連携はまだまだ発展していくと思っています。

私は県に戻りますが、岐阜署での経験を活かして、今度は民有林から国有林への橋渡し役として、民国連携の推進に貢献して行きたいと考えています。

最後に、お世話になった岐阜署の皆様にお礼を申し上げます。二年間ありがとうございました。

岐阜県

交流派遣は人生勉強

高井和之
（派遣先　本巣市林政部）

3回目の市町村交流派遣を終えた感想を一言でいうと、派遣は人生勉強、この間に関わりを持っていただいた方々に深く感謝いたします。

さて、1回目の派遣は阪神淡路大震災の復興支援のため、研修という形で芦屋市へ行き、市役所の執務室も避難所となっている特殊な環境下、技師の私と市の課長の2人で、無事に工事を発注できました。1年間ではありましたが、仕事の優先順位、情報収集、迅速な決断が重要であることを学ぶことができ、時に窓口業務を行うことで、所有境界の難しさや、住民の方々の生活を想像しながら仕事へつなげることの大切さを知りました。

それから20余年、2回目は日本一の森林面積を誇る高山市へ派遣され、林務課長という立場で、住民や地域団体への対応、組織のマネージメントや市議会対応を学びました。諸事情があり1年間になりましたが、長期にわたる森林管理のあり方や、国や県との考え方の摺り合せ、あるいは独自性を検討する中で、最前線にあるのは住民生活の安全、安心であり、森林に対しても山地災害防止、水源かん養が重要であることを再認識しました。

そして今回、3回目の派遣は本巣市で、2年前に引継を受けた時には、林政部長という立場で、市議会答弁を含む重責を担うことに身が引き締まる思いでした。また、30年前に担当していた旧根尾村や旧本巣町の懐かしい顔ぶれに再会できるうれしさや、県林政部OB2名の在籍で心強さを感じました。本巣市は山間部から市街地まで南北に44㎞あり、岐阜県の縮図になっていると思いながら、部局間の連携を意識して幹部会や市議会に出席してきましたが、全国の市町村で唯一と思われる林政単独の部局である本巣市林政部は、この4月の組織再編により農林水産と商工観光が一つになった産業経済部となり、7月からは新庁舎、新体制で森林の適正な管理と利活用を考えることになります。

私を含め県林政部の職員のほとんどは、学生時代を含め何十年も森林・林業を探求し続ける専門職と言えます。一方で、地方行政の最前線はまぎれもなく市町村であり、さまざまなキャリアを持つ職員の方との交流や、地域の課題の根幹に触れることができる市町村派遣は、大変有意義な機会であると思います。また、私たち県職員に求められる姿は、最前線で奮闘する市町村に寄り添った、いわば伴走型であるべきと感じているところです。

交流派遣

岐阜森林管理署

国から出向して

江崎陽介
（派遣先　県林政部森林経営課）

令和4年4月に中部森林管理局から岐阜県林政部森林経営課に出向させていただきました。

私は岐阜県への出向前、森林育成関係の業務を担当していました。そして、森林経営課に配属が決まった時に、「森林整備関係で今と同じような仕事をする」と聞き、自身の今までの経験を活かせると思っていました。しかし、配属されてみると国と県の手続きの違いや補助金関係などの経験したことのない業務ばかりで困惑したのを今でも覚えています。しかし、すべてが初めての業務であり、新規採用者の気分となり業務ができたことは、今となっては良かったと思えます。

そして、森林経営課で担当した業務で一番印象に残っているのが、森林・環境税事業です。多くある森林・環境税事業の中で、奥山の間伐を実施する事業と二酸化炭素吸収のために植栽を実施する事業を担当しました。二つの事業とも、自然災害の発生を未然に防止し、水源の保全や地球温暖化対策に繋がる重要な事業であり、その事業に携われたことはとても良い経験となりました。初めはかなり困惑し、うまく業務をこなせていませんでしたが、とある農林事務所の方に助言をいただき、救われたのを覚えております。

業務の内容として、事業要領等の改正や補助金執行管理などの重要な仕事が多い反面、とてもやりがいがあり、達成感を常に感じられる仕事でした。実は業務に慣れてきたころから、岐阜県職員への転職が脳裏をよぎっていたことは内緒です。

また、私と境遇が似ている市町村からの交流人事の方々も林政部に数名みえました。同じような境遇であるため、本音で話ができ、相談もしやすく大変助かりました。今後も同じ境遇をともにした仲間として、交流していきたいと思います。

私自身、令和6年4月に中部森林管理局岐阜森林管理署に復帰となり、配属先では森林整備や獣害関係で民国連携等に携わる機会が多くあります。岐阜県に出向した経験を大切にして、「清流の国ぎふ」の森林整備に全力で取り組んでいきます。二年間の貴重な体験をさせていただき、ありがとうございました。

本巣市

県への出向を経験して

橋本真一
（派遣先　県揖斐農林事務所）

私は本巣市の職員として6年間仕事をしてきました。公務員として異動は付き物ですが、2年前の異動は私の中で想像していないものでした。

2年前、人事課から告げられた異動先は「揖斐農林事務所」への出向でした。市町村組織から県組織への出向です。そして、揖斐郡は西濃圏域であり本巣市とはまた違う、馴染みのない土地でした。加えて農林事務所…私が異動を経験した中で、全てが初めての世界でした。

私が配属されたのは林業課の治山係でした。正直、配属先を告げられたとき、初めて「治山」という言葉を知りました。治山とは何なのか、山の字があるから山には関係あるのだろう、それくらいの知識で4月1日を迎えました。

仕事をしていく中で、自分の中で治山とは何なのか、が見えてきました。簡単に言えば、森林の持つ機能を使って、土砂崩れ等の災害を防ぐ、といったものだと感じています。加えて、森林の維持造成という側面もあります。恥ずかしながら、治山係に配属されるまで言葉すら知らないものでしたが、私たちの生活に密接に関わりがあり、その中で非常に重要な位置に属する事業であるということを知りました。

治山事業は地域に住む方々とも大きく関わりを持ちます。それは、山の持ち主である方たちの了承を得て、初めて事業ができるということです。地権者の方に了承を得る、つまり事業に賛同いただくには、どうしてこの場所で治山事業が必要なのか、その経緯や必要性等説明できるだけの知識が必要となります。

この2年間を振り返ると、学びの2年間でした。全く知識のない状態からスタートであったこともあり、大変苦労しました。ですが、この2年間は自分の中で、知識だけでなく仕事に対する姿勢も大きく変化するものでした。今までは与えられた仕事をこなす、という姿勢が主でその必要性や重要性までに視野を広げて考えることができていませんでした。今回の出向を通じて、事業の計画論から携わることで大きく仕事の視点が変化しました。それと同時に、公務員として働くということを改めて見つめ直しました。

最後になりますが、揖斐農林事務所の林業課をはじめ、揖斐川町、大野町、池田町の職員の皆様には大変お世話になりました。市町村職員という立場ですと、他市町村の様子がわからないことが多い中、大変貴重な経験でした。本巣市に戻りましても変わらぬご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

“ぎふの木”使います！ 7

ー 岐阜県木の国・山の国県産材利用促進協定締結者のご紹介 ー

岐阜県では、「岐阜県木の国・山の国県産材利用促進条例」に基づき、事業者が県と協定を締結し、県産材の利用を促進する構想の実現に向けて連携して取り組むことで、脱炭素社会の実現や循環型社会の形成、地域経済の活性化を目指しています。

令和５年７月２７日に第１回目となる協定締結式を執り行い、１５事業者（１４協定）の皆さんと協定を締結しました。その各協定締結者のご紹介シリーズ第７弾です。

株式会社フロンティアの介護（名古屋市）

ホームページ　https://www.frontier-gp.jp/

令和５年４月に開設した名古屋市東区にある「グループホームやだの憩」は、岐阜県産の東濃桧を活用し、木のぬくもりを感じるアットホームな施設です。入居者やご家族の方からも大変なご好評をいただいています。

また、令和６年４月に岐阜市内においてグループホームを開設しました。

木造建築による、木の質感を活かしたあたたかみを感じる施設です。

株式会社フロンティアの介護、丸山木材ホールディングス株式会社（木材調達）及び岐阜県との3者協定を締結しました。

ライフサポート株式会社（各務原市）

＜今までの取り組み内容＞

地域に根差した医療との密接な関わりを持った高齢者施設の事業を展開しています。SDGsの取り組みとして、建物の改築や再利用及び岐阜県産材を積極的に利用することで、脱炭素社会の実現、循環型社会の形成に努めています。

当社では令和５年度、各務原市において岐阜県産材を使用した高齢者施設ナーシングホーム　サフィール各務原を建設しました。暖かい杉の木の香りに包まれ、ご利用者・ご家族から「気が安らぎ、落ち着く空間」と大変ご好評をいただいております。

＜今後の取り組み内容＞

今後も、さらなる県産材利用拡大のため、令和６年度以降、岐阜県内に２棟、愛知県内に1棟の高齢者施設の建設を予定しています。岐阜県産材を活用して、地域に根差した事業運営と介護ニーズへの取り組みに尽力してまいります。

ホームページ　http://aliss.co.jp/

各協定締結者には、県産材の活用について積極的な普及啓発に努めていただきます。

森林サービス産業

「ぎふ森のある暮らし」のお便り

令和５年１月に設立された「ぎふ森のある暮らし推進協議会」から「遊び」「学び」「健康」などに森林を活用する「森林サービス産業」に取り組む会員の活動をご紹介します！
「森林サービス産業」により、山村地域に新たな雇用と収入機会を創出することが期待されています。

第2回 「特定非営利活動法人 森のなりわい研究所」

どんな活動をしているのですか？

本研究所は、「森を活かし、森に育まれるくらし・地域づくり」を目指して、以下のような活動に取り組んでいます。

- 森林環境学習の企画・運営・支援
- 野生動植物の調査
- 森林・緑地の多目的空間化 / 景観デザインの設計・提案
- 森林健康法に関わる環境設計およびプログラムの開発
- e（エコ＆エデュケーショナル）ツアーの企画運営
- 森林づくり活動の支援
- 森林に関わる広報普及活動
- ワークショップ等の企画・運営支援

★キーワードは「温故創新の森のある暮らしづくり」

森は、私たちの暮らしに様々な恵みをもたらしてくれています。でも、日頃その恩恵を意識せずに生きているのが私たちの現代（いま）の暮らしではないでしょうか？

かつての「暮らし」では日々の糧を森からいただき、その大切さを肌で感じることができたことでしょう。

私たちは、森の恵みを実感できる「なりわい」を再構築していきたいと思っています。

それは、かつての「森のある暮らし」の再発見でもあると同時に今の社会に合った「森のある暮らし」の創造でもあると考えています。

【eツアーでの1コマ】

【森での遊びそして学び】

今後の「森林サービス産業」への期待を教えてください！

森の様々なサービス（便益）の提供が「なりわい」になることを目指しています。その基盤として、森を日々意識できる「生活文化」として「森のある暮らし」が定着すると良いなぁ、と考えています。

- **ホームページ　森のなりわい研究所**　http;//www.morinari.com/
- **Facebook**　https://www.facebook.com/morinonariwai
- **連絡先**　e-mail:info@morinari.com

ぎふ森のある暮らし推進協議会では、県内で「森林サービス産業」に取り組んでいる／取り組もうとしている方を会員として募集しております。詳しくは下記までお問い合わせください。

TEL：058-272-8472　メールアドレス：c11513@pref.gifu.lg.jp

ぎふ森のある暮らし推進協議会について

山の歳時記 225

YAMA NO SAIJIKI

モチツツジ

文：樹木医・日本森林インストラクター協会 理事 川尻 秀樹

美濃市の小倉山でモチツツジが淡紅紫色の花を咲かせていました。

モチツツジ（Rhododendron macrosepalum）は山梨県・静岡県から岡山県までの本州と四国の山地や崖、岩石地、道端などの酸性土壌に多く見られ、美濃市周辺以南ではアカマツやコナラの林でコバノミツバツツジに遅れて花が咲きます。

葉の展開と同時に枝先に咲かせる花は、漏斗状で上の花弁には深紅色の斑点があり、雄しべは一般に5本ですが6～10本の場合もあります。

学名のRhododendronはギリシャ語で「バラ（バラ色）」を意味するrhodonと、「樹木」を意味するdendronの造語で、rhoddがケルト語で「赤色」を意味することからも、赤い花をつける樹木を意味します。また種小名のmacrosepalumは「大きな萼」を意味します。

葉は枝に互生しますが、春と夏では見られる葉が異なります。春に出る葉は広楕円形で少し大きく、夏に出る葉は春より小さい狭楕円形なのです。秋には橙色～赤色に紅葉しますが、多くの葉は落葉せず冬越する半落葉性のツツジです。

モチツツジの「モチ」は「餅」ではなく、萼や新芽、柄などに生えた腺毛が鳥黐（とりもち）のように粘ることに由来し、漢字で「黐躑躅」と記されます。腺毛とは植物の表皮に生じる突起状の毛で、モウセンゴケのように特殊な液体を分泌するため、時々小さな虫が粘液に捕えられて死んでいることもあります。

モチツツジには体長5㎜ほどで淡緑色のモチツツジカスミカメ（Orthotylus gotohi）が生活していることがあります。普通の小昆虫類は萼や柄の粘液に捕えられてしまいますが、モチツツジカスミカメは腺毛上を自由に歩き回ることができ、動けなくなった昆虫類の体液を吸います。

ツツジは「続き花」、「続き咲き」や「筒状の花」、「筒咲」に由来するとする説。また韓国で躑躅をtchyok-tchyok、またはtchol-tchukと発音し、これが日本でツツジとなったという推定説等があります。万葉集など古文書では、筒自、筒士、乍自、躑躅などが使われていますが、今では「躑躅」を使うのが一般的です。

躑躅の「躑（てき）」は佇む、足踏みすることを意味し、「躅（ちょく）」は足摺する、あがくを意味します。つまり「躑躅」は躊躇する状態を意味し、これは中国のシナレンゲツツジ（Rhododendron molle）に由来すると言われます。

飛騨のある地域では昔、「田植えを終えた水田の片隅に、花の咲いたツツジの枝と神社の御札などを立てて豊作を祈願した。」と聞きました。里山からの帰り道、山すその水田に映し出されたモチツツジの花を見て、今年の豊作を願ったのです。

モチツツジ

山のおじゃまむし

―大きな腹部、ツチハンミョウの生き残る戦術―【第394回】

自然学総合研究所　野平 照雄●*Teruo Nohira*

昆虫類は自分たちの種が絶えないようたくさんの卵を産む。それでも成虫になるのはごくわずか。幼虫期に天敵と呼ばれる魔物の餌食となるからだ。特に植物の葉を食べている昆虫類。姿が丸見えなので鳥やカエルなどの格好の餌。ほとんどが食べられてしまう。このため、考えついたのが、卵を産んで、産んで、産みまくるという戦術。つまり、食べられても、食べられても、それに耐え、わずかが生き残るという過酷な手段だ。それでも、成虫になるのは1000卵中わずか2，3匹なのである。このほか枯れた樹木を食べているものがいる。しかし、ここでも生き残るのはごくわずか。植物の葉のように餌となる枯木が少ないからである。この厳しい現実。これがこの虫たちが長い年数をかけて築きあげた、生き残り戦術なのである。しかし、中にはこうした手段を避け、餌や子育て方法を変えるなどして、生きている昆虫がいる。その手口は多様で実に巧妙。思わず感心してしまう。とはいうものの、これも生き残るのが過酷で苦難、苦難の連続。これまた成虫になるのはごくわずかなのである。この巧妙な手口。そのいくつかを紹介しよう。

×　×　×　×

よく目にするのが狩りバチと呼ばれているジガバチだ。この虫の子育ては独特だ。まず、成虫は地面に穴を掘って巣穴を作る。その後、蛾や蝶などの幼虫を狩って、麻酔薬？を注入し動けなくする。この幼虫は麻痺しているだけなので、腐ることはない。これを巣穴へ運び込み、卵を1個産み付ける。孵化した幼虫は、この獲物が腐る前に食べてしまう。そして、成虫となり巣穴から出ていくのである。この間、わずか10日間。この効率的な手口。しかも、この方法だと天敵の餌食とならないので、成虫になる確率は極めて高い。しかし、問題もある。巣穴掘り、獲物を狩って巣穴へ運び込むなど一連の作業は1匹のメスが行うのである。だから時間がかかる。何百匹も育てるのは難しいのである。巣穴を作る昆虫は他にもいる。アリマキバチ科の小さな蜂だ。この蜂は土中に巣穴を作り、ここへアブラムシを生け捕りにして貯め込み、ここに卵を産み付けていくのである。孵った幼虫はこのアブラムシを食べて成長する。この間、蜂はせっせとアブラムシを狩ってきて与え続けるので、やがて成虫になる。この方法だとたくさん卵が産めるし、しかも天敵の餌食にならないので、成虫になる確率が高い。これも見事な生き残り戦術である。

×　×　×　×

ところが、この蜂が巣へ運んできたアブラムシを、横取りする別の蜂がいるのだから驚いてしまう。ツヤセイボウの仲間である。まずこのツヤセイボウは成虫になると野外にいるアブラムシの体内に卵を産み付けていく。その数無数。とにかくたくさん産み付けておくのだ。そして、このアブラムシをアリマキバチが狩って巣へ運び込むと、ツヤセイボウの卵は孵化してアブラムシの体内から出てくるのだ。ここにはアリマキバチが自分の子供のために狩ってきた、アブラムシがたくさん貯め込んであるので、これを食べて成長していくのである。この横取りするという知恵。これにも感心してしまう。しかし、ツヤセイボウがアブラムシにたくさん産卵しても、アリマキバチに狩られるのはごく一部、と言うか幸運中の幸運。やはり生き残るのはごくわずかなのである。

×　×　×　×

私が最も過酷だと思うのはツチハンミョウである。ツチハンミョウの幼虫はハナバチ類の巣で蜜を食べて生活している。しかし、巣にたどり着くまでの道のりは厳しい。成虫は春に発生する。メスは写真のように腹部が大きくふくれ、中には無数の卵。この体では飛べないので、外敵に襲われると逃げることができない。こうしたときは死んだふりをし、体から毒液を出して身を守っているのである。卵は土の中に固めて産む。その数、約5千個。すごい数だ。孵った幼虫は近くにある植物に上り花の中に潜り込んで、昆虫が来るのを待つ。花の無い植物に上った幼虫はここで死亡。花に昆虫が飛来すると、競ってその体に乗り移る。しかし、大部分がハナバチ以外の昆虫。ハナバチの巣にたどり着けないので、ここでも多数死亡する。巣に運ばれるのは乗り移った昆虫が運よくハナバチの雌に移動できたものだけなのである。ツチハンミョウの幼虫をつけたハナバチの雌は花から蜜や花粉を集めて巣に運ぶ。これを何回も繰り返す。その間、幼虫はチャンスをうかがい、雌が卵を産む瞬間に、その卵に乗り移る。失敗すると蜜の中へ落ちて溺死するので、ここでも幼虫が死亡するのである。無事巣にたどり着いた幼虫はまずその卵を食べる。食べ終えると足のない幼虫に変身して蜜を食べ始める。たくさん食べて大きくなり、ようやく成虫となるのである。それにしても、こうまでして生き延びようとするツチハンミョウ。改めてすごい昆虫だと思う。

ツチハンミョウ

ぎふ木遊館通信

前回４月号において紹介しました「木育ひろば」「赤ちゃんひろば」に引き続き、今回はぎふ木遊館の他のエリアについて紹介いたしますので、ぜひ、ホームページ等をご覧いただき、遊びに来てください。

＜木工室＞

木工室には「いとのこ」や「のこぎり」「焼きペン」「グルーガン」等ものづくりができる木工道具がそろっており、遊び感覚で簡単に手作りできるものから本格的な木工まで、様々な木育プログラムを体験できるスペースです。

毎月多彩な講師を招き、様々な木育プログラムを実施しています。松の薄板を使って手形や足形を取り、子どもの成長を感じながら季節のデコレーションを楽しむプログラム「おててでぺったんあんよでぺったん」や、機械を使わず伐り出して間もないみずみずしい木からスプーンをつくる、大人向けのプログラム「スプーンクラブ」、季節に合ったものづくり等、小さなお子さんから大人の方まで、幅広い年齢層の方が参加しています。

参加者からは「木を使って記念に残る作品ができて良かった」「じっくり時間をかけてものづくりができて良かった」「楽しむだけではなく、森林のことも一緒に学べて勉強になった」等感想をいただいています。

また、幼児教育や木工のデザインを学ぶ学生等の研修も受け入れており、学びの場としても木工室を活用していただいています。

おててでぺったんあんよでぺったん

スプーンクラブ

幼児教育研修

＜ギャラリー＞

ぎふ木遊館のギャラリーでは、木工作品の紹介や、県内各地の「ぎふ木育」の取組、またその背景となる自然を紹介するギャラリー企画展等を開催しています。

企画展ごとに、県内各地の木工作品、ぎふ木育に関わる取組や森林文化を知っていただけます。

なお、ギャラリーは予約不要（無料）で見学いただけます。

ギャラリーの見学を希望される方は当日受付にてお申し付けください。

ギャラリー展示

ぎふ木遊館公式ホームページ☆

ぎふ木遊館がどんな施設なのか等の施設案内、木育プログラムやイベント情報等を掲載しております！
また、ホームページの「事前予約のお申込み」から各種予約ができますので、ぜひご活用ください。

ぎふ木遊館公式Instagramのご紹介

ぎふ木遊館で行われる木育プログラムやイベント情報、館内の様子や木のおもちゃの話等を公式Instagramにて発信しております！
まだ来館したことがない方も当館の様子がわかりますので、ぜひチェックして、フォローをお願いします。

GIFUMOKUYUKAN0717

やがてみんなの森になる

morinos

プログラム紹介！！

岐阜県立森林文化アカデミー・森林総合教育センター（愛称ｍｏｒｉｎｏｓ）で実施しているプログラムについてご紹介します！

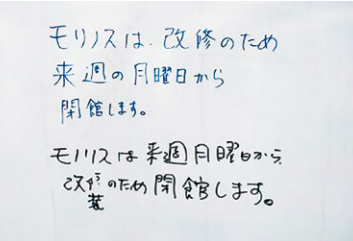
＜アカデミー教員プログラム「『伝える』と『伝わる』の違いって何だろう？　―コミュニケーション実験室」＞

morinosでは、森に親しむ入口となる様々なプログラムを開催しています。今回ご紹介するのは、森林文化アカデミーの個性豊かな講師陣による特別なプログラム、教員プログラムについてです。20名近い講師陣の中から、今回は森林環境教育専攻の谷口吾郎先生をお迎えし、「『伝える』と『伝わる』の違いって何だろう？　―コミュニケーション実験室」を開催しました。

「動物探し」

まずは、スクリーンに映し出された不思議な絵を眺めながら、そこに隠されている動物を探すゲームを行いました。すぐに見つけることができる人がいれば、言われてもなかなか気づかない人もいました。そして、潜んでいる場所を伝えようにも、それを言葉にして説明するのは難しいということも実感しました。

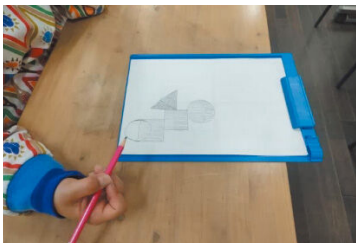
動物探しの後は、自己紹介と参加動機を話してもらいました。皆さんテーマである「コミュニケーション」について、日頃から悩みや苦労を感じているようでした。



「伝言ゲーム」上が元の文、下が伝言後

最初の実験は「伝言ゲーム」。順番に言われた言葉を覚えて、次の人にその通りに伝えていきます。簡単なようですが、「1回しか聞けない、質問もできない」というルールで行ったところ、かなり難しく、最後の人まで伝言し終わった後に確認してみると、元の文とはかなり内容が変化していました。

谷口先生からのレクチャーによると、双方向でのやり取りの際、互いに想いを言語化する時に情報の劣化が起こり、さらに伝わるまでの間にノイズ（別の情報）が入ってまた劣化するとのことです。



「人間FAXゲーム」
動物探しと一緒で、言葉で伝えるのは難しい

次の実験は、イメージを言葉に変換して相手に伝える「人間FAXゲーム」。これは送り手が見たイメージを、言葉だけで受け手に伝え、受け手は聞いた情報だけでイメージを再現するものです。

1回目は一方的に送り手が口頭で伝え、2回目は双方向で確認や質問をしながら伝え、それぞれどのように伝わるのか比較実験を行いました。いずれも円や正方形などシンプルな図形が配置されたイメージでしたが、送り手・受け手とも、双方向で伝えることの重要性を感じた様子でした。

『伝える』、『伝わる』の気づき共有

最後に今回の実験（体験）を終えて、各自の気づきを付箋に書いて共有しました。誰かが正解を知っていて教えるのではなく、一緒にやりながら考え、気づきを共有していくという、谷口先生が普段アカデミーで実践していることを、参加者も実感することができたのではないでしょうか。

今回の気づきが、参加者のみなさんが普段コミュニケーションで感じている、悩みや苦労を改善する何かしらのヒントになりますように。

morinos HPでは、こうしたプログラムから日常風景まで、様々な活動報告を行っています。興味を持ってくださった方は、morinosのHP、YouTube動画をご覧ください。

ホームページ　https://morinos.net
YouTube　検索「morinosチャンネル」
開館時間　10:00～16:00
定休日　毎週火・水曜日

morinosHP
YouTube「morinosチャンネル」

シリーズ

『森林・環境税』で“緑豊かな清流の国ぎふづくり”

1

県では、「清流の国ぎふ森林・環境税」を活用し、県民みんなで豊かな自然環境を守る様々な取組みを行っています。こうした取組みの内容について連載で紹介します。

清流の国ぎふ地域活動促進事業
～住民主体の創意工夫を凝らした森づくり・川づくり～

平成24年度から令和5年度までの12年間で延べ555件の事業が実施されました。
令和6年度は、55の団体がそれぞれ特色ある事業を実施します。

団体名	事業名
三輪の里山を守る会	恵みの森づくり推進事業
NPO法人 長良川自然学校	長良川　川の学校事業
NPO法人 e-plus生涯学習研究所	ぎふの川に学ぶSDGs　清流をいつまでも
NPO法人 竹林救援隊	竹林の間伐と放置竹林を無くすための啓発活動
といろ	「お山と小川で遊ぼう！IN　山県」
ぎなんプレーパークの会	森を感じよう 2024 ～ぎなんプレーパーク～
笠松の自然と共生を考える会	笠松町における生物多様性保全事業
木の駅上石津実行委員会	森林づくりへの参加
(有)大橋量器	小学生向け 枡プランターづくりと植林体験を通じた森づくり推進事業
(一社) ぎふ地球環境塾	ぎふ地球環境塾
木曽三川子ども狂言クラブ	木曽三川の治水と生物を守る子ども狂言プロジェクト
NPO法人 いちご	もくいくようろう
NPO法人 山菜の里いび	信長の薬草園再生プロジェクト
「北方憩いの森」整備・活用実行委員会	「北方憩いの森」推進事業
NPO法人 揖斐自然環境レンジャー	徳山ダム上流に実のなる木を植えよう大作戦
(一社) いび森のようちえんこだぬき	一緒に森を学ぼう
揖斐たけとり会	日本三大美竹林整備活用事業
小津区自治会	小津地域を主体とした森づくり事業
(一社) よだか総合研究所	根尾川むいむいの森　安全講習と環境整備
大谷桜公園・里山づくりの会	大谷桜公園　里山づくり推進事業
関市広見交遊会	関広見ICふれあい遊歩道整備事業
木と家にまつわるエトセトラ	森と木を活かした持続可能な環境づくり啓発推進事業
エゴノキプロジェクト実行委員会	エゴノキプロジェクト
NPO愛宕山ランド	子どもと自然をぐっと近づける森づくり
郡上漁業協同組合	第 14 回長良川源流の森育成事業
明宝ジビエ研究会	明宝の森とエコサイクル推進事業
(一社) DRC協会	無人機で見直す清流の水環境
金谷里山整備支隊	ボランティアの力で荒廃地の竹林雑木を伐採し里山再生しよう
大洞里山整備隊	森の学校・生き物の学校実施事業
(一社) こどもの庭	里山保全活動の継続および人材育成のための環境教育・里山サロン事業
三和まちづくり協議会	三和まちづくりプロジェクト △ stage2 △
中之番自治会	白隠の里森林整備活用事業

団体名	事業名
木曽川左岸遊歩道友の会	木曽川左岸遊歩道等周辺整備事業
NPO法人 坂祝まちづくり推進機構	勝山地区登山道整備事業
半布里の郷	富加町の自然を守る里山整備活動
可茂森林組合	R6 可茂南部 100 年の森林づくりプロジェクト【エコ薪】で CO2 削減せよ！
NPO法人 美濃白川どんぐり会	落葉樹林　植林・育成事業
小里川ダム里山教室	２０２４秋の小里川ダム湖周ウォーキング
NPO法人 明日の稲津を築くまちづくり推進協議会	黒の田湿地及び周辺の環境保全再整備並びに PR 活動事業
加子母むらづくり協議会	学びの森　木の匠育成事業
いのちもり	森と暮らしの学校事業
ひるかわ里山活性化委員会	里山活性化事業
付知町優良材生産研究会	未来を担う中学生への森林環境教育
NPO法人 奥矢作森林塾	松本地区における森づくりと担い手づくり活動
土岐川庄内川源流の森委員会	流域の交流を通した源流の森と里山里地の整備と担い手育成事業
吉田地域活性化委員会	「すわがね」子どもの森づくり事業
中切区里山環境整備活動組織	中切区里山整備事業
NPO法人 活エネルギーアカデミー	山の恵みと共存するプロジェクト
二本木生産森林組合	飛騨高山「彦谷の里」里山活用と広葉樹林育成事業
NPO法人 飛騨高山わらべうたの会	森林環境教育推進事業
森の自然学校	清流の森づくり　2024
高山南の森保全の会	高山南エリア里山林整備事業
飛騨漆の森プロジェクト	飛騨漆の森づくり推進事業
NPO法人 山の自然文化研究センター	森と川の結のはたらき
komorebi	一本の白樺の木でつなごう！人と森

●令和５年度実施事業

エゴノキプロジェクト実行委員会
（エゴノキプロジェクト）

NPO 法人長良川自然学校
（長良川　川の学校事業）

【森林活用推進課】　●詳しい内容を知りたい方は TEL 058-272-1111 内線（4344）森林活用推進課森林活用係まで

森林と人を活かす知恵 136

木材と考える、「ひとに教える」ということ

元岐阜県立森林文化アカデミー　助教授●上田 麟太郎

アカデミーで教員を務めて2年が経ちました。着任まで大学で博士課程まで9年間学生をしていた身ですので、教わる立場としてはプロ（？）を自負していましたが、教える立場になって改めて考えるものがあります。アカデミーで木材と関わりながら「教える」ってなんだろう？と考えていると、木材とのつながりをふと感じることがあります。今回は、そんな事柄についてご紹介します。

●受けたものは残り続ける

写真1に、入り皮のある丸太の断面を示しました。例えばシカに剥がれたり、幹が凍結して割れたりなどして樹皮が損傷すると、その部分を巻き込むように周囲から材が成長していきます。その結果、材の内側に取り込まれてしまった樹皮が入り皮です（余談ですが、材の成長は遅く、完全に取り込むにはかなりの時間が掛かります。写真1の例はシカ害とみられますが、損傷した部分を覆い込むのに10年以上掛かっています）。木材にはほかにも、過去の自然災害の経験が年輪に残るもの（洪水輪、霜輪など）もあります。木材の経験は、材のなかに記録され残り続けるのです。

写真1. 入り皮のある丸太断面

樹皮を剥がすほうからすればつゆ知らずで構わないでしょうが、人の場合、そうはいきません。学生時代からこれまでを通じて、「先生、こう言ってませんでしたっけ……？」という場面を何度も経験しました。言ったほうは忘れていても、言われたほうはしかと覚えているものです。そこでのズレ、一貫性のなさは信頼感にかかわります。信頼がなければ、教えたところで「言われたからやりました」が関の山で、結局何も伝わらなくなってしまいます。だからこそ、言ったことを覚えておくのは当然として、何かを指示した以上は自分でも必ず履行する（自分ができない・しないことはそもそも指示しない）ように注意しています。

さて、入り皮は周囲の木材と完全に繋がっている訳ではないため、力が掛かるとここで割れてしまいます。腐れが入ることもあります。そのため、入り皮のある木材はほぼチップ材として安値がつくことになります。残すのなら、良いもの、腐らないものを残したいものですね。

●曲がったままでもいい

曲がった木から無理にまっすぐな（通直な）材を製材しても、やがて曲がってしまいます。挽いた直後は全体として通直に見えても、構成する繊維自体が斜め向きになっているため、乾燥させると元の形に戻ろうとするかのように曲がるのです。ねじれがある木も同様で、きれいに直角の出た角材を製材しても、乾燥させると材がねじれて仕上がります。もって生まれた性質は、製材では変えることができません。

曲がり木であれば、曲がりの少ない部分だけを選んで出来るだけ通直な材を採る手もありますが、曲がった部分を捨てることになるのは考えものです。強度などを考えても結局、曲がり木から通直な材を採ることにはあまりメリットがありません。曲がり木は例えば破風板など、曲がった形の材として使うのが一番良い方法です。通直な材から曲がった材を採り出す場合よりもロスが少ないだけでなく、破損しにくくなることも期待できます。

写真2. 曲がりのある丸太

教える人として他人にかかわるのも同じことで、相手のもって生まれた性分は変えることができないものです。何かを正解として押し付けるのは上手くいきません。それぞれの性分を見究めて、教える人としてのかかわり方を考えて、最も良さそうな在り方を提案することが「教える」営みには大事なことだと思います。

●「分からない」を伝える

製材や木材加工は、機械に材料を置いてボタンを押せば終わり、というものではありません。材料を見て、加工して、材料をまた見て、加工して……の繰り返しです。木材という材料は、一つずつ違います。同じ加工方法がずっと上手くいくとは限りません。結果は加工するまで分からないのです。では、何を見ればいいのか？どんな手順が必要で、なぜそうするのか？というと、ただ説明されてもピンと来ないものです。

学生に教えていると、「なぜ？」「どうやって？」を自分で考えてもらうことが大事なのだと気付かされます。ただ体験すれば良いものではなく、正しい手順を与えて「これをやって」では、結果はいくら面白くても「へぇ」で終わってしまいます。与えられるだけでは身に付きません。うまくいくか分からないものを自分で掴み取るからこそ、面白いのです。

そこで、教えるなかで「なぜ？」と尋ねることや、「やってみて」を大事にしています。やらないと分からない。だから、理由も含めてちゃんと自分で考えて、ひとまず試してみる。失敗もしなければ、正しい手順がなぜ正しいのかも分かりません。

分かりきった答えでなく、「やらないと分からない」ことを伝えることも、「教える」ことの大事な側面でしょうか。

写真3. 破風板の例(犬山城天守閣)

●詳しい内容を知りたい方は　TEL (0575) 35-2525 県立森林文化アカデミー まで

木の香る
ぎふの施設
134

内装木質化

岐阜県立西濃高等特別支援学校　多目的室

大垣市西大外羽1－181－1

施設全景

施設の概要

事業年度	令和5年度
事業主体	岐阜県
構造 延床面積	鉄筋接合構造 81.915㎡
施設用途	多目的室
木材使用量 使用樹種	0.5213㎥ スギ(県産材100%)
全体事業費	4,510千円(県有施設木質化事業)
助 成 額	―
設 計 者	―
施工業者	株式会社南濃建設
工　　期	令和5年6月27日～令和5年9月29日

施設の経緯

西濃高等特別支援学校は、平成30年度に開校し、令和5年度で6年目を迎えました。昭和58年3月に建てられた実習棟1の中に多目的室があり、内装の劣化が目立っていました。また、実習室だった頃の不要な配管や設備が残っていたため、用途が限られた教室となっていました。

今回の工事では、不要な配管や設備を撤去し、床全面に岐阜県産のスギ板を敷き詰め、温かく開放的な雰囲気に生まれ変わりました。

ここに注目！！

ビニール床を木質化したことにより、明るく温かみのある多目的室となりました。また、古い配管等を撤去したことにより、活動スペースも広がりました。

利用者の様子

生徒からは「きれいになった」「落ち着く」と好評です。授業以外にも、活動発表会や他校との共同学習などに活用されています。

■問い合わせ先
岐阜県立西濃高等特別支援学校
TEL 0584-89-4848

土石流災害リスクをわかりやすくするための地図を作成しました

森林研究所●臼田 寿生

はじめに

近年、気候変動の影響による大雨が増加傾向にあり、土石流などの山地災害の発生リスクが高まっています。土石流は、発生源から下流2㎞程度まで被害が及ぶことが明らかになっており、被害が甚大化しやすい特徴があります。このため、土石流の発生源となる林地の取り扱いにおいては、土石流災害リスクを考慮することが重要であり、リスクが高い場所では、地形改変をともなう路網整備を避けるなどの対応が必要です。

そこで当所では、土石流災害リスクをわかりやすくするための地図を作成しました。

土石流災害が発生しやすい場所の明確化

土石流災害リスクを把握するためには、まずは土石流災害が発生しやすい場所を知ることが重要です。土石流に関する文献によると、土石流の運動には、土石流の流下経路となる渓流の縦断勾配が大きく影響を与えることが示されています（図1）。そこで、土石流の流下経路となりうる集水面積1ha以上の水系を対象として、その縦断勾配を航空レーザ測量で得られた地形データから計算し、地図上に表現しました。

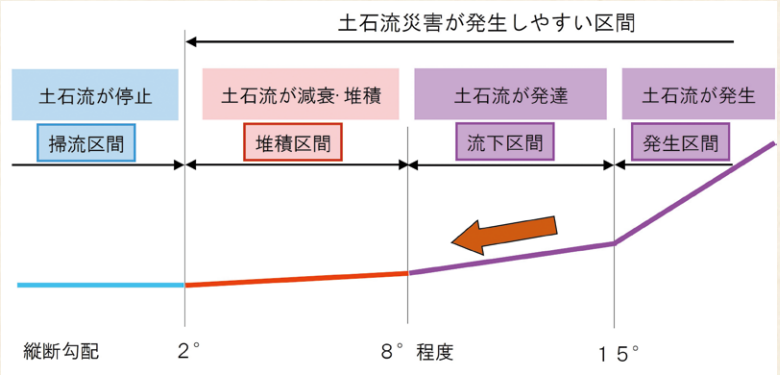


図1. 土石流の運動と渓流の縦断勾配
（関連文献を参考に作成）

地図に表す水系線の縦断勾配の区間長などの表現方法は、現地との適合性とわかりやすさを考慮しながら検討しました。

縦断勾配を表示する区間長については、地図の見やすさを考慮し、10m、20m、30mの3パターンを検討しました。現地での計測結果をもとに比較検討したところ、現地との適合性が最も高かったのは10mのパターンであったため、これを縦断勾配の表示区間長として採用しました。

また、地図における水系線の縦断勾配の表現は、図1の土石流の運動特性を踏まえて、「2度以下」、「2度超8度以下」、「8度超」の3区分で色分けし、土石流災害が発生しやすい場所を容易に把握できるようにしました。

建物への土石流到達リスクの明確化

土石流の被害から最優先に守らなければならないのは「人命」です。土石流によって人命が失われるケースとしては、就寝中など家屋等の建物に人がいる状況での被災が考えられます。このため、林地で土石流が発生した場合の建物への到達リスクをわかりやすくすることが重要です。

土石流の到達距離に関する文献によると、ほとんどが発生源から2㎞程度以下であり、そのうちの多くが1㎞以内であることがわかっています。そこで、林地から建物までの距離を地形データなどから計算し、「1㎞以下」、「1㎞超2㎞以下」、「2㎞超」の3区分で地図上に色分けで表現することで、建物への土石流到達リスクを容易に把握できるようにしました。

ただし、近年は土石流発生時の雨量の増加、さらには水に浮く流木が土石流に含まれるケースの増加などによって、土石流の到達距離が2㎞を上回る事例もしばしば確認されています。このため、建物までの距離が「2㎞超」の林地から発生した土石流は、建物が被災する可能性は低いものの、「被災の可能性はない」と断言できないことに留意してください。

おわりに

「土石流災害が発生しやすい場所」と「建物への土石流到達リスク」を表現した地図は「土石流災害リスク評価支援図」として県内全域分を作成しました。ぜひご活用ください。

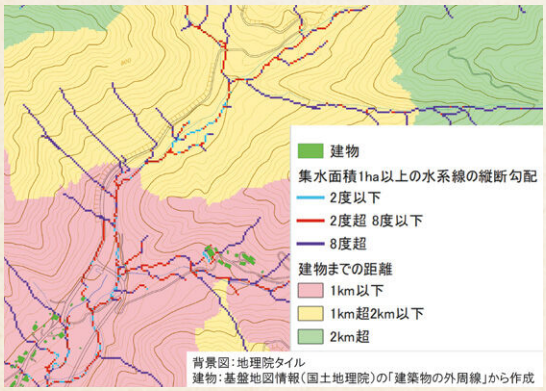


図2. 土石流災害リスク評価支援図

●詳しい内容を知りたい方は
TEL 0575-33-2585
森林研究所まで

施業プランナー研修について

■森林文化アカデミー
森林技術開発・支援センター　普及企画係
林業普及指導員　吉田　宗平

○はじめに

岐阜県では、「森林所有者に対し、間伐や路網整備等の収支を含めた施業提案を行い、森林経営計画を作成・実行監理できる中核的な人材」を施業プランナーと位置付け、平成20年度から育成のための研修を企画・運営しており、多くの研修修了者が、県内各地の林業の現場で活躍しています。

研修が始まって15年目になる令和5年度も、前年度に引き続き施業プランナーを養成する「育成研修」と、施業プランナーの技術力を向上するための「実践力向上研修」を実施しましたのでご紹介します。

○施業プランナー育成研修

○研修の概要（令和5年度）

研修の到達目標

① 施業プランナーの役割や必要な基礎的知識の習得

② 施業プランナーの主たる業務である施業提案書の作成及び森林経営計画の作成と実行監理が出来る人材の育成

日程　令和5年6月12日～令和6年1月30日（全12回）

受講者　10名（うち修了者9名）

○研修の内容

第1回

施業プランナーに期待する役割や、プランナー業務に必須のツールであるGISの使い方、及びプランナー業務の実務に関する講義を受けました。

第2回

岐阜県のプランナー育成研修の特徴の一つにOJT（On the Job Training）による演習があります。

これは、研修生が自ら設定した演習地において、森林の現況調査、路網や作業システムの設計と施業計画の立案、収支の検討など、森林所有者へ施業の提案・説明を行う上で必要な一連の作業について、農林事務所の林業普及指導員らの支援を受けつつ取り組んでみるものです。

第2回では、設定した演習地の概要を説明し、講師らから施業計画の作成に向けた質問や助言を受けました。

第3回

「山地災害リスクを考慮した森林管理」として、リスクの評価に必要な情報や、リスクを考慮した森林管理の考え方についての講義を受けました。

第4回

午前中は「目標林型と施業方針の設定」として、施業の目標とする将来的な森林の姿（目標林型）等についての講義を受けました。

午後は、第3回の内容について、演習林内を歩きつつ、気を付けて観るべきポイントなどの解説を受けました。

第5回～第7回

アカデミーに近い古城山国有林をフィールドに、研修生が2つのグループに分かれ、講師の指導を受けながら、路網の線形と作業システムの図上での検討、現地での踏査、及び森林の現況調査等を行い、施業計画を立案する演習を行いました。

線形踏査の状況（育成研修）

第8回

午前中は、プランナーとして必要な安全管理の方法などについての講義を、午後は現場で生産した木材の販売方法などの木材流通についての講義を受けました。

第9回、第10回

プランナーとして集約化施業を進める上で必要な施業提案書の作成方法や、施業の指示の方法と進捗管理について講義を受けました。

第11回

第5～7回で調査・立案した施業計画をもとに、第9～10回で学んだ

内容を踏まえて、グループごとに施業提案書を作成し、講師や他の研修生にプレゼンテーションを行う演習を実施しました。

第12回

これまで研修で学んできたことを活かし、各自で設定したOJTの事業地の現地調査を実施し、立案した施業計画について講師や他の研修生に説明をして、提案内容に対するアドバイス等を受けました。

○施業プランナー実践力向上研修

○研修の概要（令和5年度）

研修の到達目標

施業プランナーの日常業務を進める上で困っていることなどを自ら解決していくことのできるスキルを身につける。

日程　令和5年6月27日～10月25日（全7回）

受講者　6名

○研修内容の紹介

今回、研修生からは主に路網と災害防止に関する課題について応募がありました。

提出された課題としては、風雪害などの気象害を受けた森林についての今後の対応や、マサ土地域における作業道の維持管理方法などです。

まず、各課題についてのグループ討議で本研修において解決を目指す論点を整理し、講師を交えた議論により解決に向けた方向性を検討しました。

その後、各研修生の課題に対応した現場で現地検討会を実施し、検討した対応策について最終回で発表し、講師からコメントやアドバイスをもらいました。

またその後に総括講義を行い、これからの林業の方向性について考える機会としてもらいました。

現地検討会の状況（実践力向上研修）

◇今後の取組み

令和6年度も引き続き施業プランナー研修を実施する予定です。

「施業プランナー育成研修」、「施業プランナー実践力向上研修」の参加をご検討の方は、森林文化アカデミー森林技術開発・支援センターまたは各農林事務所林業課へお問い合わせください。

●詳しい内容を知りたい方は
TEL 0575-35-2535
森林文化アカデミー
森林技術開発・支援センター
普及企画係まで

森林技術開発・支援センター　林業普及通信

地域森林監理士養成研修について

岐阜県立森林文化アカデミーでは、平成29年度から地域森林監理士養成研修を実施しています。国家資格の森林総合監理士（日本版フォレスター）は圧倒的に公務員が多く、人事異動が伴います。これに対して地域森林監理士は、民間フォレスターとして、市町村への支援、地域の森林づくりを継続的に担う人材を想定した岐阜県独自の制度です。

令和元年の森林経営管理制度の開始を機に、森林環境譲与税を財源に本制度に関する内容や推進手法などを拡充しています。

例年、6月中旬～10月下旬（延べ16回）の期間に研修を行います。その内容は、県施策、倫理法令、森林計画、森林経営管理制度、林業経営、路網整備、防災など全14項目と多岐にわたります。さらに「地域課題研修」では、研修生が所属・活動している地域の課題を整理、検討して、実際に市町村などに施策提案をしています。最近は、森林経営管理制度に関する課題設定が多くなっています。

本研修を修了すると地域森林監理士認定試験の1次試験（筆記試験）が免除となります。認定制度を創設した平成29年度から令和5年度までに39名の方が研修を修了し、その内36名の方が2次試験（小論文、面接）に合格して、有資格者としてご活躍をいただいています。

研修対象者は、岐阜県在住者または岐阜県在勤者であり、次の①～⑦のいずれかに該当する者

①岐阜県森林経営プランナー
②認定森林施業プランナー
③認定森林経営プランナー
④森林総合監理士
⑤技術士（森林部門）
⑥林業技士（林業経営部門）
⑦その他知事が認める者

●詳しい内容を知りたい方は
TEL 0575-35-2535
森林文化アカデミー
森林技術開発・支援センター
普及企画係まで

国有林の現場から 91

「デジタル森林紀行」のご紹介

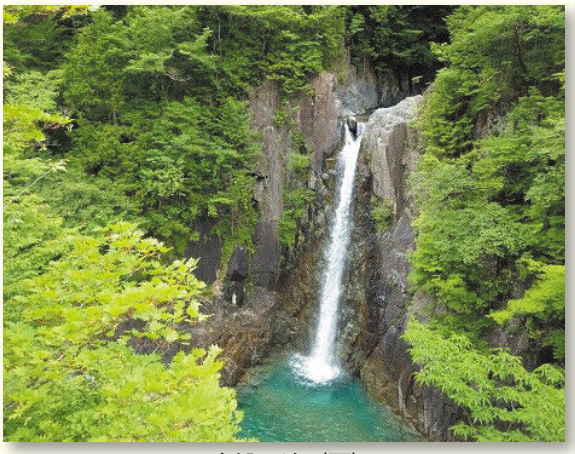
「デジタル森林紀行」は、中部森林管理局が作成したウェブサイトで、風景の色をテーマに分類した様々な写真を掲載しており、ご自宅や外出中でも気軽に森林が織りなす美しい風景を楽しんでいただけます。

今回はその写真の一部をご紹介します。

テーマ「青」〈青い風景〉

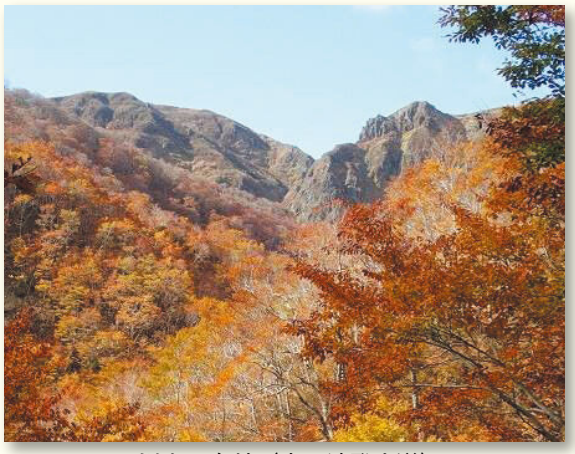
岐阜城

テーマ「緑」〈緑の風景〉



高樽の滝（夏）

テーマ「黄」〈黄色の風景〉



川上国有林（夜叉池登山道）

テーマ「白」〈白い風景〉

能郷白山

テーマ「ALL」〈色にこだわらず〉

南岳より朝日の槍ヶ岳

興味のある方は、下のコードをご利用いただくか「デジタル森林紀行」で検索してみてください。お気軽に美しい風景を楽しんで、心身ともにリフレッシュしていただければ幸いです。

また、デジタル森林紀行の裏サイト「モノクロ森林紀行（過去へタイムスリップ）」も同サイトから閲覧できます。カラー写真のない時代の森林作業の様子や道具などを掲載していますので、ぜひ一緒にご覧ください！

森林鉄道

（岐阜森林管理署）

森林・林業関係イベントカレンダー（5月～6月）

林業者向け

開催日	行事名等	内　容　等 （概要、定員、受講料、申込期限など）	場　所 申込（問合せ）先／TEL
5月14日㈫	**刈払機取扱作業者 安全衛生教育**	●講習時間：学科　8:55～15:20 実技　15:30～16:30 ●申　込：開催日の10日前まで ●受講料：11,550円(本代含む)(振込み) ●定　員：40名(定員になり次第締め切ります。)	ＪＡひだ吉城営農センター (飛騨市古川町上野 571-1) 林材業労災防止協会　岐阜県支部 電話 058-275-0192　FAX 058-201-1195
5月15日㈬～ 5月17日㈮	**伐木等の業務(チェーンソー) に係る特別教育**	●講習時間：15日　学 科　8:50～17:10 16日　学･実　8:50～12:00 17日　実 技　8:30～17:40 ●申　込：開催日の10日前まで ●受講料：23,870円(本代含む)(振込み) ●定　員：40名(定員になり次第締め切ります。)	15 日（学科） 16 日（学・実） ＪＡひだ吉城営農センター （飛騨市古川町上野 571-1） 17 日（実技） 県森連飛騨林産物共販所（高山市新宮町 112-7） 林材業労災防止協会　岐阜県支部 電話 058-275-0192　FAX 058-201-1195
6月4日㈫	**刈払機取扱作業者 安全衛生教育**	●講習時間：学科　8:55～15:20 実技　15:30～16:30 ●申　込：開催日の10日前まで ●受講料：11,550円(本代含む)(振込み) ●定　員：30名(定員になり次第締め切ります。)	郡上森林組合（郡上市八幡町稲成 525-7） 林材業労災防止協会　岐阜県支部 電話 058-275-0192　FAX 058-201-1195
6月12日㈬～ 6月14日㈮	**伐木等の業務(チェーンソー) に係る特別教育**	●講習時間：12日　学 科　8:50～17:10 13日　学･実　8:50～12:00 14日　実 技　8:30～17:40 ●申　込：開催日の10日前まで ●受講料：23,870円(本代含む)(振込み) ●定　員：30名(定員になり次第締め切ります。)	12 日（学科） 13 日（学・実） ぎふ森林文化センター（岐阜市六条江東 2-5-6） 14 日（実技） （株）木の国　土場（山県市椎倉 203-1） 林材業労災防止協会　岐阜県支部 電話 058-275-0192　FAX 058-201-1195

コラム

よく晴れた日曜日の午後から美濃加茂市山之上の「みのかも健康の森」に行き、７７７段の階段の先にある展望台に登りました。

子供がまだ小学生の平成１０年頃は、わんぱく広場のフィールドアスレチックや遊具で遊ぼうと日曜日によく健康の森に行きました。

５年ほど前に７７７階段を登った時は、頂上の手前にある生活環境保全林整備で一斉に造られた施設のひとつ東屋が使用禁止になっていましたが、今回「清流の国ぎふ森林・環境税」を活用して新しくなっており、頂上には展望テラスも新設されていました。風雨により老朽化した施設が改築され、真新しい椅子に腰を下ろすと美濃加茂市内を一望することができ、休憩とともによいひとときを過ごすことができました。

帰りの階段で、家族連れとすれ違った時、１０歳くらいの子供が少し遅れて登って来るお母さんを振り返り「お母さん大丈夫？」と声をかけている姿が微笑ましく、親を気遣う優しい子供、家族での朗らかな休日だなと思いました。

屋外での新しい発見もあり、公園に出かけ気分転換にもなった1日でした。

「森林のたより」編集委員　岐阜県森林組合連合会　山下 篤志

イベント情報

6月1日発行

連載
- 山の歳時記（226）
- 山のおじゃまむし（395）

清流と森と親しむ
- 森林と人を活かす知恵（137）

木と親しむ
- 岐阜県の公共木造建築（135）

清流の国ぎふ森林・環境税

森林・林業技術
- 研究・普及コーナー

市況情報　**その他**

6月号予定

木材市場

木材市況　県森連　岐阜・飛騨・東濃林産物共販所

単位:円(1㎥当たり)

回数 共販所名	樹種	長さ	径	平均値	高値	気配
第1851回 岐阜共販所 4月9日	すぎ	3 m	16～18cm	14,600	—	→
		4 m	16～18cm	14,000	—	→
			20～22cm	15,000	—	→
			24～28cm	15,000	—	→
			30cm以上	13,000	—	→
		6 m	16～20cm	18,000	—	→
	ひのき	3 m	16～18cm	21,100	—	→
			20cm以上	19,000	20,500	→
		4 m	16～22cm	21,000	—	→
			24～28cm	19,200	—	→
			30cm以上	18,900	35,000	→
		6 m	16～18cm	—	—	→
第1441回 飛騨共販所 4月10日	すぎ	3 m	16～22cm	14,500	—	→
		4 m	24～28cm	14,800	—	→
			30cm以上	12,000	—	→
	ひのき	3 m	16～18cm	21,000	—	→
		4 m	20～22cm	20,300	—	→
			24～28cm	19,100	—	→
			30cm以上	19,000	60,000	→
		6 m	16～20cm	25,000	—	→
	ひめこ	4 m	24～28cm	15,000	—	↘
			30cm以上	20,000	42,900	↘
		5 m	30cm以上	—	—	↘
	くり	4 m	24cm以上	15,000	—	→
第1775回 東濃共販所 4月4日	すぎ	3 m	16～22cm	14,300	—	→
		4 m	24～28cm	14,800	—	→
			30cm以上元	15,000	39,000	→
	ひのき	3 m	16～22cm	20,500	—	→
			24～28cm	19,000	—	→
			30cm以上元	25,000	44,000	→
		4 m	13cm以下	10,000	—	→
			24～28cm	19,300	—	→
			30cm以上元	26,000	58,000	→
		6 m	18～22cm	29,500	—	→
	まつ	4 m	22～28cm梁	—	—	→
			30cm以上元	11,000	—	→

※単価は直材価格、但し平均値は並材二番玉価格。気配は、前回市との比較。

【商況】

スギ4mの元木、尺上良材は、入札旺盛であるが軟調。スギラミナ向け3m･4m材は保合。ヒノキ元木、尺上良材3m･4m役物取りは入札旺盛で引き合いは強いが価格は保合にて推移。ヒノキ3m･4m構造材も価格は保合で推移。合板向けは、住宅着工などの伸び悩みにより製品の荷動きが鈍く弱基調。製紙向けパルプ材、発電向け未利用材ともに原木不足感が強く需要高。(岐阜)

スギ、ヒノキは横ばいの展開で推移。マツは伐採シーズンが終り弱含み。広葉樹の出材は少ないが応札旺盛で特にナラ材は人気が集まる。高値はヒノキ4m×44cm@60,000円、ヒメコ3m×46cm@41,800円、ヒノキ4m×44cm@42,900円、イチイ2m×34cm@253,500円、イチイ2m×30cm@191,000円、クリ2.1m×34cm@32,000円、ナラ2.2m×36cm@37,000円、ホウ2.1m×36cm@33,900円、サクラ2.1m×36cm@45,000円。(飛騨)

ヒノキ役物良材には応札多数で活気あり、特に46cm以上の大径材は5m･6m造材の需要も強く、出材を予定される方はご検討下さい。3m柱向け(14cm～26cm)も価格は保合ながら手堅い売れ行き。4m中目、土台向けは、引き合いはあるが保合。スギ中目、尺上元木良材は価格は保合で推移。4m(24cm以上)構造材も保合で推移、3m構造材向けも保合継続。スギ6m長柱向け(18cm～22cm)は各方面からの強い要望があり造材をご検討下さい。合板向けは製品荷動きが鈍く弱基調。ラミナ向けはスギ、ヒノキとも活発な動きあり。(東濃)

製品卸売標準価格 (3月期)

単位:円

樹種	用途	寸法(mm) 長	巾	高	等級	m³当り価格	(本(枚)単価)	前月比較
スギ	柱	3000	105	105	1等	70,000	(2,315)	↓
	間柱	3000	105	30	1等	70,000	(662)	↓
ヒノキ	土台	4000	105	105	特等	80,000	(3,528)	↓
	柱	3000	120	120	特等	75,000	(3,240)	↓
		6000	120	120	特等	150,000	(12,960)	→
集成材 Wウッド	柱	3000	105	105	国産5層	91,000	(3,000)	→
		3000	120	120	国産5層	98,000	(4,200)	→

※日刊木材新聞調べ(名古屋標準相場　全てKD材)

外材市況 (3月期)

単位:100円(1㎥当たり)

樹種	規格	価格	前月比較
米松	SSタイプ	396	→
	コースト(目荒)	435	→
米栂	ヘム(アラスカ産)	468	→
米ひば	ポール	—	—

日刊木材新聞調べ 名古屋標準相場(径級は30cm上、米松コーストのみ大阪相場)

これってなあに?～木材用語～

バーカー

丸太の樹皮を剥ぎとる機械。高水圧で皮剥ぎするジェットバーカー、刃物で剥ぐリングバーカー、ドラムバーカー、チェーンバーカーなどがある。

(参考)日刊木材新聞社　木材･建材用語辞典